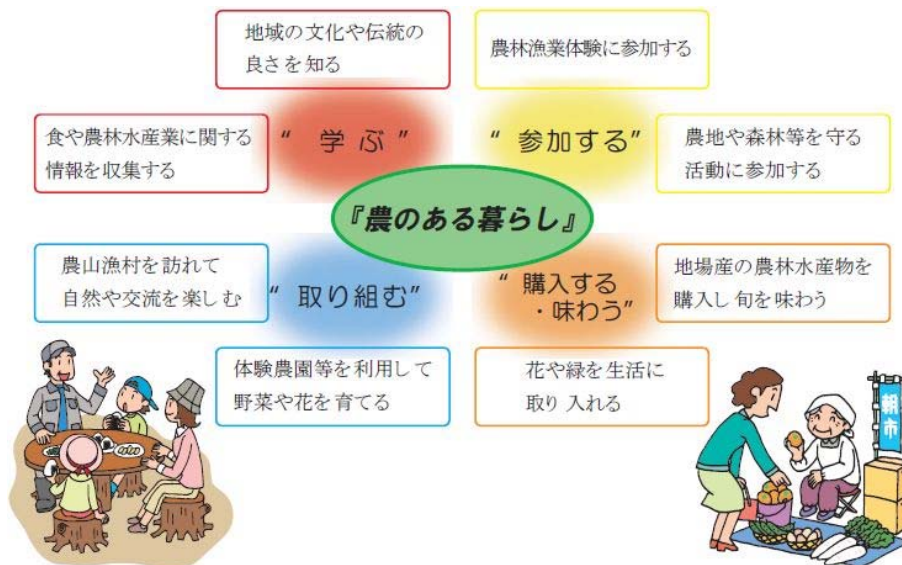


Ⅲ 「農のある暮らし」の実践例

農林水産業が果たしている役割を理解し、その大切さや農林水産物の価値を知ることは、知らず知らずのうちに地域の農林水産業を応援したり、自らの健康的な生活につながったりします。

そこで、県民のみなさんに農林水産業に親しむ活動を積極的に生活の中に取り入れていただく「農のある暮らし」の実践を進めています。



「フラワーウォーク」をきっかけに「花のある暮らし」

ワンコイン（500円）で、素敵な花束や鉢花を購入し、それを自宅へ持ち帰ってもらって、「花のある暮らし」を楽しんでもらう「フラワーウォーク」。花を持って歩くことで、帰宅途中で出会う人たちに、さりげなく「花のある暮らし」をPRするという運動です。花の生産者団体（愛知県花き温室園芸組合連合会）と連携して、愛知県が全庁を挙げて取り組んでいます。

当事務所でもこの運動に参加しており、毎回30名から40名の職員が花を購入しています。

ポイントは、多様な消費者の好みに合うよう、花き生産者から色や形に気を使って提供されることです。

退庁時には各職場からカラフルな花が街に消えてゆきます。これを見た方が少しでも花を購入してくださることを期待し、今後もこの取組を支援していきます。



ガーベラをよく選んでいる様子

加工体験で子どもたちに食農教育

農業改良普及課では女性農業者グループの農村輝きネット・尾張の会員が行う、食農教育活動の実施を推進しています。平成21年度に30代の若い会員が加入し、会員の行事として「親子イチジクジャム体験」を実施したことがきっかけとなり、会員の子どもの通う尾張旭市内の小学校や保育園で講座を実施するようになりました。

徐々に講座の種類が増え、平成23年度は、子どもたちに対して特産品である「イチジク」のジャム加工や、あいちの伝統食である「おこしもの」、日本伝統の「しめ縄づくり」等の指導が実施されました。

また、平成24年度からは、学校等からの講座開催の要望を市の産業課が窓口になり取りまとめてくれるようになり、この活動が地域に定着してきています。



楽しそうにジャム作りに取り組む子どもたち

小学校でマイしいたけと間伐材の皮むき体験

一宮市立千秋小学校では、原木しいたけの菌打ちから収穫までを体験しています。児童が菌打ちした原木は、キノコ生産者の元で大切に管理されます。しいたけ発生間際になると学校に戻されて、その後約1週間は児童が毎日霧を吹いて育てます。なかなか見ることのないしいたけが生えるところをじっくり観察し、愛情こめて育てたマイしいたけが大きくなるといよいよ収穫。児童に笑顔があふれました。

また、花壇の縁取りや樹名板、ベンチや机を作るなど、児童も一緒になって積極的に間伐材を利用しています。昨年度は藤棚下の土留めに利用するために間伐材の皮むきも体験しました。

森の恵みの素晴らしさを実際に体感することで、森林のない市町の子子どもたちが、森をより身近に感じるきっかけになっています。



椎茸原木に霧を吹きかけながら、しいたけが大きくなるのを観察します。



皮の下から現れたスベスベした木の肌にびっくりしていました。



愛知を食べよう いいともあいち

食と緑の尾張地域レポート ' 1 2
(平成23年度版)

平成24年7月

愛知県尾張農林水産事務所
〒460-0001 名古屋市中区三の丸二丁目6 - 1
電話(052)961-1597(農政課直通)
E-mail owari-nourin@pref.aichi.lg.jp
ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/nourin-owari/>

